

公社等外郭団体の改革方針

団体名	(財)千葉県勝浦海中公園センター		所管所属名	商工労働部観光課	
事業内容	南房総国定公園勝浦海中公園内のレクリエーション・教養文化施設の管理運営、利用者の誘致及び宣伝などを行っている。				
財務状況	年度(単位:千円)		H20	H21	H22
	貸借対照表	総資産	677,555	655,749	697,132
		負債	112,904	97,119	139,548
		資本	564,651	558,630	557,584
		累積損益	529,651	523,630	522,584
	損益計算書	総収入	114,911	108,385	101,277
		経常損益	△14,749	△6,445	△1,103
		当期損益	△15,253	△6,021	△1,046
		減価償却前当期損益	△11,348	△2,356	2,413
		借入金残高	0	0	0
	県財政支出	委託料	12,134	12,050	12,050
		補助金・負担金	0	0	0
		その他	0	0	0
県関与の必要性	団体の必要性				
	<p>(団体の必要性)</p> <p>本センターは、南房総国定公園勝浦海中公園の主要な拠点である海中展望塔を所有し、管理運営しているとともに、指定管理者(21年度～23年度までの3ヵ年)として勝浦海中公園の管理運営を受託し、隣接する「千葉県立中央博物館分館海の博物館」の立体駐車場使用料徴収業務を受託するなど、県の観光振興施策や自然保護施策に密接な事業を行っていることから引き続き団体としての必要性がある。</p> <p>(県関与(人的・財政的)の必要性)</p> <p>本センターは県の観光振興施策や自然保護施策に密接な事業を行っていることから、引き続き常務理事(所長)として県職員(OB)を派遣し、センターの円滑な業務運営を図るために県職員(OB)としての知識・経験を生かし、理事会の決定に関する全般業務や庶務関係の総括業務を行わせることは必要である。</p>				
過去の見直し方針	分類	関与縮小			
	県職員の派遣縮小				
現在までの取組状況	<p>平成15年度までは、常務理事(所長)及び庶務次長として、県職員を2名派遣していたところであるが、職員の意識を高め、業務の効率化を図ることで組織をスリム化し、平成16年度からは県からの派遣職員は常務理事(所長)1名とした。</p> <p>平成22年度からは、現職の県職員の派遣は無くなり、県職員(OB)を常務理事(所長)とした。</p>				

役職員の状況	常勤役員 14 1名⇒ 23 1名 うち県OB 14 0名⇒ 23 1名 うち県派遣 14 1名⇒ 23 0名	常勤職員 14 8名⇒ 23 5名 うち県OB 14 0名⇒ 23 0名 うち県派遣 14 1名⇒ 23 0名
課題	<p>1 経営改善</p> <p>海中展望塔への入込客数の減少に伴う売上高の減少や施設の老朽化に伴う維持補修に係る費用の増加により本センターの経常損益が悪化しており、平成19年度以降4年連続で赤字となるなど、引き続き経営状況の改善が必要な状況である。</p> <p>(1) 海中展望塔への入込客数の減少について</p> <p>海中展望塔の入込客数については、平成13年度に初めて20万人を切り、平成15年度以降減少が続いており、毎年度、昭和55年度の開業以来の過去最低の入込客数を記録している。(入込客数の減少に伴い、海中展望塔に係る売上高も減少傾向となっており、平成20年度には初めて1億円を割り、平成21年度以降も減少が続いている。)</p> <p>(2) 施設の維持管理について</p> <p>引き続き海中展望塔を運営していくにあたっては、平成22年度に実施した海中展望塔内外及び栈橋(一部)の総合点検調査に基づき、所要の補修を行うなどして維持管理していく必要がある。</p> <p>2 新公益法人制度への対応</p> <p>平成20年12月1日に施行された新公益法人制度の下、新法人移行について検討する必要がある。</p>	
今後の改革方針(案)	分類	経営改善
<p>1 経営改善</p> <p>(1) 経営計画に基づく経営改善</p> <p>本センターにおいては、現在、(財)千葉県勝浦海中公園センター経営計画(3ヵ年(H22年度～H24年度))を策定し、経営改善に取り組んでいるところであるが、引き続き経営改善への取組を継続するよう指導するなど、効率的な運営を指導していく。</p> <p>次期経営計画では、本センターと千葉県立中央博物館分館海の博物館との連絡会議を通じて、海の博物館との連携を強化し、海中展望塔内において博物館職員による魚の説明を行うなどの取組により入場者数の増加、売上の増加を目指すこととする。</p> <p>(2) 今後の海中展望塔の活用策・施設の維持管理についての検討</p> <p>本センターにおいて平成22年度に実施した海中展望塔内外及び栈橋(一部)の総合点検調査の結果、適宜、所要の補修工事を行い維持管理していくことで、施設の余寿命は概ね40年程度あるとされた。今後は、当該調査結果を受けて、近年の観光ニーズ等を踏まえ、海中展望塔の活用策及び施設の維持管理について、地元の勝浦市などと検討を進めていく。</p> <p>2 新公益法人制度への対応</p> <p>本センターが新法人移行について検討するに当たっては、他の出資者である勝浦市・新勝浦市漁業協同組合と連携し、必要な指導等を行う。</p>		